

# 書いたら何通り？

京都教育大学教授

森山卓郎 もりやま たくろう

日本語には「漢字」があり、使い分けがある。例えば「つく」という言葉

には、「付(附)く、着く、点く、就く」などの漢字が当てはまる(常用漢字表外の読みも含める)。しかし、考えてみれば、「手に汚れが付く」「駅に着く」「蠟燭に火が点く」「会長に就く」などは、みな「ある物が移動して(別の所に存在するようになる)」という意味としてまとめられる。「突く」はアクセントが違つので別)。日本語のとなえ方としては「つく」は元々一つだったが、対応する漢字の概念がいろいろなので、こつした「書き分け」がされるのである。

さらに送り仮名の書き方も、「許容」がある点で、決して一つではない。例えば、「もうじこみ」だけで「申込」「申

込み」「申し込み」がある。

先日、授業の余り時間に、「漢字を使って書いたら何通り？」の文作りを競ってみた。最も多い書き方になる文は、「こつないの とりくみは はやく かえるように つとめることです」であった。すなわち、「校内・構内」、「取り組み・取組・取組み」、「早・速・疾・迅」、「帰・変・換・替・代・還・返・辨」(「買える」もあるが意味が違つ)、「努・勤・勉・務」ということで、この書き方は「2×3×4×8×4=768」通りある。

これに敗れ(破れ)て二位だったのが、「めいだいでは きみは いかす ばを なくす」という こつぎを

きく。「明大・名大・命題」、「君・黄身」、「活・生」、「亡・無・失」、「講義・抗議、

「聞・聴・訊」で、「命題では黄身は活かす場を亡くす」という講義を訊く」というすごいのも含めたのに、216通り。悔しい(口惜しい)思い(想い)をしたそう。

このゲーム、漢字の学習をしながら日本語の表記のすこさが実感できる。ちよいとアレンジして、「めいだいの まわり(周り・回り)の しりつ(私立・市立)がっこうの とりくみは、はやく かえるように つとめることかと ききました」とすると、単純計算では13824通りの書き方ができる(「こと・事」だとさらに二倍)。

日本語の表記はすごい。常用漢字だけで競っても楽しい。いい(良・佳)好のができたら、ぜひ「相談室」編集部へお知らせ(報せ)ください！